

## 実践報告書

---

- 記入日：2026年3月17日
- 記事タイトル：生成AIを活用し、生徒が未来に触れ考え、行動する探究的英語学習
- ご所属：練馬区立大泉中学校
- お氏名（よみ）：山本 康太（やまもと こうた）
- 略歴：練馬区立大泉中学校主任教諭。早稲田大学教育学部英語英文学科卒業後、2013年より西東京市、文京区、練馬区等にて勤務。日頃よりICTや生成AIを活用した授業実践を積極的に行っている。一般社団法人HelloWorld IntEx Lab フェロー、文部科学省委託事業英語教育推進リーダー（LEEP）、マイクロソフト認定教育イノベーター（MIEE）、ミライシードDXエデュケーター、WorldClassroom Innovative Educatorなどを務める。単著に『英語教師・学習者のための生成AI「超」活用術』（明治図書）、『いちばんやさしい先生が校務に使えるGoogle NotebookLMの教本』（インプレス）、共著に『生成AIとデザインする！情報活用型プロジェクト学習ガイドブック3.0』（明治図書）がある。

以下、報告書（写真や図を使用して作成ください）

### 1. 実践の背景:

- なぜ企業やNPOとの協働を取り入れることにしたのか、その動機や背景および、協働的な学びの中で、どのような学びが生まれると考えているのかを記載してください。
- 従来の英語学習は教科書内での定型的なやり取りに終始しがちであり、生徒が「自分の言葉で社会に働きかける」実感が乏しいという課題があった。そこで、AI英語プラットフォームを提供するHelloWorld株式会社と協働し、最先端のEツールを導入することで、英語を「学ぶ対象」から「未来を切り拓くツール」へと転換させることを目指した。AIとの対話という心理的安全性が高い環境でアウトプットを繰り返すことにより、失敗を恐れないコミュニケーション態度が養われる。また、AIから得られる多角的な情報を精査し、地域の魅力を再発見する過程で、情報活用能力と創造的な課題解決能力が育まれると考えている。

### 2. 実践の目的:

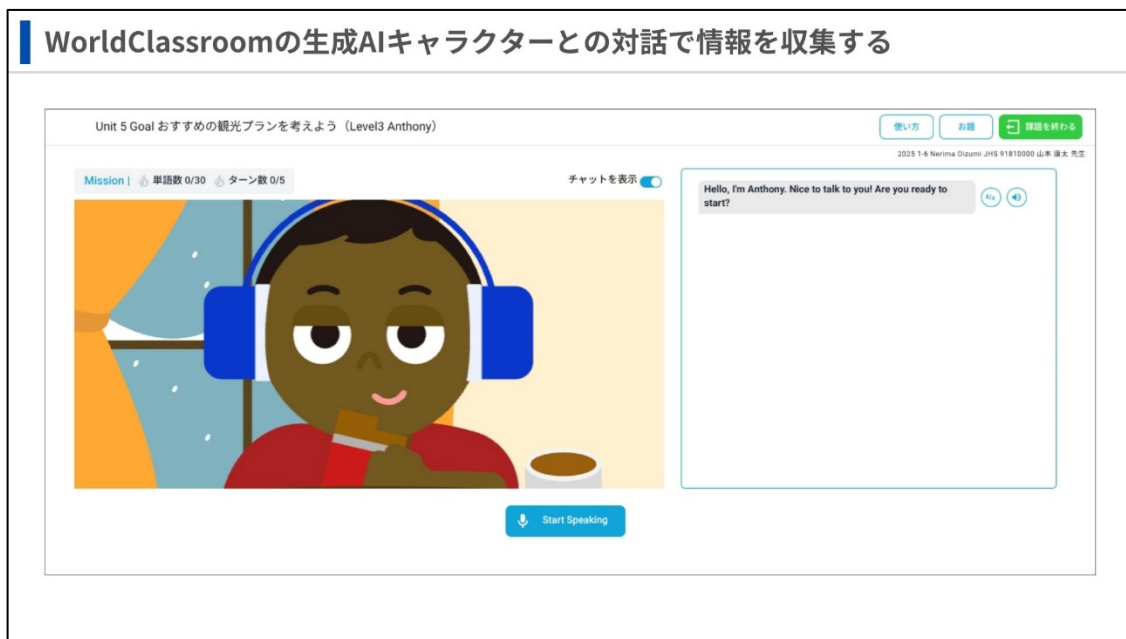
- 実践を通じて何を達成しようとしたのか、教師と児童生徒の視点での目的を記載してください。
- 教師の視点としては、AI（WorldClassroom）を効果的に授業デザインに組み込み、個別最適な学びと協働的な学びを両立させる指導法の確立を目指す。生徒の

視点としては、AI との英語対話を通じて「自分の英語が通じる」自信を得るとともに、地域の良さを世界に発信する「未来の観光プラン」を作成し、社会に参画する意識を高める。

### 3. 実践の内容:

- 具体的にどのような活動やプログラムを行ったのか、「未来に触れる段階」「未来を考える段階」「未来のために行動する段階」ごとの詳細な記述してください。
- 未来に触れる段階：教師が生成 AI で作成した未来の観光のイメージを提示。WorldClassroom 内の AI キャラクターとの対話を開始。AI が提示する世界の多様な文化や価値観に触れ、「最新テクノロジーを使えば世界とつながれる」という未来の学びの形を体験した。



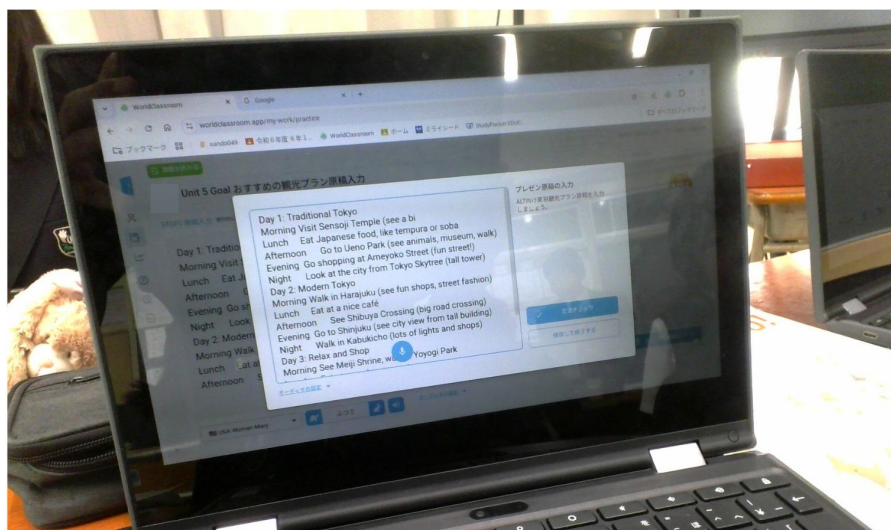


- 未来を考える段階：AI との対話から得られた情報をもとに、生成 AI を活用しながら 4 人班でプランを作成した。



- 未来のために行動する段階：WorldClassroom 上で AI との練習を経て自信をつけた英語を用いて、作成した観光プランをクラス内に向けてプレゼンテーションした。

## 観光プランをWorldClassroom上で入力



### 4. 実践の方法:

- 実践を行うためにどのような手法や教材を使用したのか、その詳細記述ください。
- 使用教材：WorldClassroom (AI 英語対話プラットフォーム)、スタディポケット (生成 AI)、まなびゅーあ (デジタル教科書)、一人一台端末 (Chromebook)。
- 手法：1. AI とのスピーキング練習 (発音・表現の修正)。  
2. AI へのインタビュー (観光ニーズの調査)。  
3. 協働学習 (グループで AI の回答を分析し、プランを統合する)。

### 5. 実践の結果:

- 実践を通じて得られた結果や成果、可能であれば児童生徒の反応や変化も含めて具体的に記述してください。
- 生徒のスピーキングに対する心理的障壁が劇的に下がり、発話量が増加した。
- 生徒の反応：「AI 相手なら間違えても恥ずかしくないので、どんどん話せた」「自分たちの考えたプランを AI が褒めてくれたり、鋭い指摘をくれたりするのが新鮮だった」といった前向きな姿勢が多数見られた。英語が苦手な生徒も、AI のサポートを得ることで意欲的に観光プラン作成に取り組み、発表することができた。

### 6. 実践の課題:

- 実践を通じて何がうまくいったのか、何が改善の余地があるのかを反省し、その内容を記述してください。特に、職場環境や児童の実態、協働を実践した教員の立場を踏まえてお書きください。

- 職場環境・実態：学校の Wi-Fi 環境が不安定な場面があり、同時接続時の動作遅延が課題となった。
- 生徒の実態：AI への「問いかけ（プロンプト）」の質によって得られる情報の質が変わるため、英語力以前のところで個人差が出た。
- 教員の立場：AI に任せきりにするのではなく、教師がどのように「人間ならではの感性や地域への愛着」を評価・フォローしていくかという、AI と教師の役割分担のバランス調整が必要であると感じた

#### 7. 今後の展望:

- 今後、協働的な学びの実践をどのように進めていくのか、課題や可能性などの展望を記述してください。
- 今後は、AI との対話で得た自信を、実際の海外の学校とのオンライン交流などへと繋げていきたい。AI を「英語の先生」としてだけでなく、「探究のパートナー」として活用するカリキュラムを定着させ、生徒が自らの手で未来をデザインできる力を育成していく可能性を目指したい。